

L-4 東松島市浜市地区

2012年2月7日(火)

報告者名	木村 敏明	被調査者生年	1933(女)
調査者名	木村 敏明	被調査者属性	浜市字新田の自宅に11月から帰宅。
補助調査者	赤尾 智宏		

浜市地区概要

字白萩は、今回の津波でほとんどの家屋が流出した。A氏の自宅も白萩で被害を被った。

字佐野は、自衛隊の飛行機が頭上を飛ぶため、その場所を運動場にすることになり、元から住んでいた人は、駅前に10軒、小野に10軒、新田に10軒移住した。運動場では、浜市部落の運動会、野球大会などが開かれる。

字城内では、かつて田を耕したところ、たくさんの骨が出てきた。骨は津龍院の住職が段ボールに入れて回収して供養をした。骨は戦で亡くなった人の骨であり、戦が行われるような城が以前あったので、字名が城内であると話者は説明する。

震災後の浜市地区

話者宅周辺の津波被害地域では3軒ほどしか戻ってきていない。津龍院より北側の牛網地区では、津波で住居が流出することなく、震災前と同様の住所で生活しているようである。

話者情報

話者は、昭和8年生まれ、鹿島台出身。両親も立正佼成会を信仰していた。話者は10人兄弟で、兄弟3人が戦争に行ったが、信仰が厚かったため無事に帰ってくることができたと考えている。話者自身も熱心な信者であり、10年間、立正佼成会の役員を務めた。23年前に廃車置き場となっているグラウンドがある場所、字佐野から現在暮らしている字新田に引っ越してきた。2反あった土地の1反を宅地とし、住居を建てた。

話者は日本舞踊を習っている。指導をしてくれた先生が、津波で亡くなったが、11月から別の先生が来て、一月に1度公民館で習っている。民謡、歌謡など、話者は歌うのが好きで、踊ることも好きである。3月24日には浜市と牛網で歌と踊りの会があり、話者も何かやってくれと言われたので、歌を歌う予定である。

話者の被災状況

石巻の佼成会の教会で被災した。激しい揺れの後、静かに水が流れ込み、教会周辺の住民と共に教会の2階に避難した。電気、水が通っていなかったため、食事などの生活面で不便が生じた。3月20日まで教会で過ごし、避難者の食事や身の世話をした。9日後になって、教会長に浜市まで送ってもらった。

震災後、何か「頭の筋が一本くらい切れてしまった」感じがしてならない。落ち着かない。また、血圧も以前正常だったのに、熊本から来たボランティアの人に言われて測ってみたら高めになっていた。

話者宅の被害状況

話者宅は土盛りをして建てられているため周囲より一段高くなっており、そのため流されなかったのではないかと。話者宅の玄関のドアが木で突き破られ、部屋内に水が流れ込んだ。布団類は泥まみれになり、衣服、ハンガーの一部は処分した。避難所、仮設住宅で過ごしていたが、7月25日に自宅の工事が始まり、11月13日からは自宅に暮らしている。仮設住宅は、風呂が小さく足を伸ばすことが出来なかった。

高いところに移った方がよいとか言うが、高いところだって何が起こるか分からない。今回の津波は何千年にいったんのこと、で、「そう来るものではない」と思って今のところに住み続けている。

昨年夏に仮設住宅から徒歩で自宅跡地まで移動し、自宅前の畑にトマトなどの野菜を植えて皆に分けてあげた。

話者の家のホトケサン（仏壇）は震災の揺れでも倒れなかった。

3月末より、釧路、札幌から2、3名、本部の栃木から3日間、立正佼成会のボランティアが来た。自宅の床板をはがして、水で流し、塩、石灰を振って乾かしてもらった。

潮垢離

A氏より4代前の漁師をしていた人が、流れついたカミサマを浜市の浜でひろった。浜市は、以前漁師が多かった。カミサマを拾ったとき、太陽が昇る時のように海が赤く光っていた。A氏はすでに亡くなっており、妻も昨年の震災で亡くなった。A家は、ほとんど絶家になってしまった。

昨年4月に潮垢離行事が行われる予定だったが、震災の影響でなくなった。

話者は、幼い頃に祖母と共に潮垢離行事で浜市を訪れたことがある。

熊野神社より、カミサマを神輿で担いで行き、小野で神輿を引き継いだ浜市の人がA家まで運ぶ。A家にある臼の上に置く。A家の近所の人々は、臼を削り、煎じて薬としていた。その薬は、「怒り病」に効くといわれていた。

震災後、宮崎町の潮垢離行事参加者が、宮崎町にある温泉に浜市の人を連れて行った。公民館の避難所にいる人たちを5回位連れて行き、話者も1回行った。

宮崎町の人々は、浜市の各家に2、3名泊まり、接待を受ける。宮崎町の人には、ゴンゲンサマを大切にしてもらったという恩があるため、震災のときに助けてもらえた。

津龍院の被害状況

津龍院は、客殿の西側と南側は震災で一部損壊し、床上浸水した。寺院裏にある墓地の墓石に車が2台のっていた。

東日本大震災の死者供養

東日本大震災で、浜市地区では 55 名が亡くなり、1 名が行方不明になっている。

来月で東日本大震災から 1 年が経ち、1 周忌である。法名をもらっていない人でも、実名でよいので供養してあげたい。

話者は、東日本大震災の死者の供養を津龍院の住職にやって欲しいと思っている。「役の人」(檀家総代か?との問いに「うんそんな感じ」と答えた)に病院でたまたま会ったので話をもちかけた。

話者は、立正佼成会から、供養できる「入神」という資格を得ている。津龍院の住職から、東日本大震災の死者供養を断られた場合、自らが供養をするつもりでいる。

灯籠流し

8 月 16 日に灯籠を小野まで持って行き、流してもらう。そのときに花火も上げる。話者の家には、立正佼成会に入っている浜市地区の人と近隣住民の灯籠が集められる。灯籠は、立正佼成会が 1 個 300 円で売っている。東松島支部で 200、小野部落で 500 ほどの灯籠が集められる。昨年に行わなかった。

正月行事

元朝参りは、石上神社に行っていた。神主が 2、3 千円のお札を売っていたが、今年は無料で配られた。

12 月 31 日をトシヤといい、オショウガツサマを迎える。